

創設60周年記念 第60回全日本実業団剣道大会

西日本勢が猛威を振るう！

平成29年9月18日(月)祝
日本武道館
主催：全日本実業団剣道連盟

パナソニックESが連覇達成

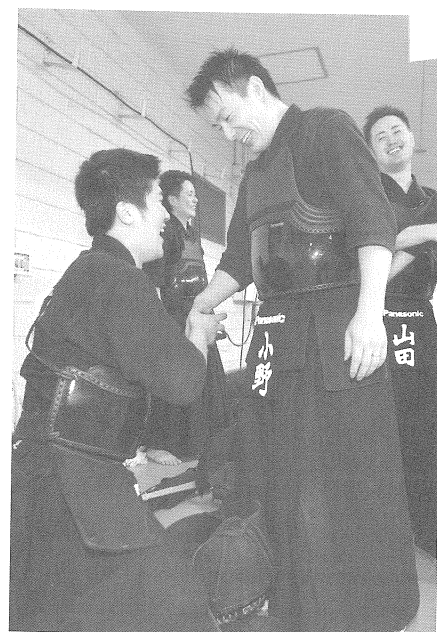


決勝 [代表]

足達 (パナソニック・ES本社) コー 榎原 (東レ・滋賀)

▲近畿対決となった決勝戦は代表戦へともつれた。ここまで大将戦、代表戦という苦しい場面を乗り越えてきた両大将が再び対決。力強い足達の攻め込みに対して榎原はスピードで対応。決着の一打は足達が得意とするコテ (写真)。これが榎原の手元をとらえた

チーム	順	先	次	中	副	大	得点	代
パナソニック (ES本社)		山田	吉村	小野	高	足達	1	足達
								コ
東レ (滋賀)	②	×	×	②	×		1	
		寺井	藤田	嘉数	各務	榎原	1	榎原



決勝戦終了後、代表戦を制した足達とキャプテンの小野が固い握手を交わす。足達は最優秀選手に選出された



優勝◆パナソニック(ES本社) 山田侑希(25歳)、吉村大地(23歳)、小野準平(31歳)、高優司(27歳)、足達翔太(27歳)、山田晋平(29歳)。監督＝酒井順也

全国各地から実業団剣道連盟所属のチームが集い、日本一の座を争う大会。今回は前年よりも2チーム少ない365チームが大会にエントリーし、日本武道館でのしのぎを削った。

試合時間は1回戦から準々決勝までは一試合3分、その後の準決勝、決勝は4分で争われる。日本武道館内には16試合場が設けられるが、それぞれの試合コートはやや手狭な作り。実業団が難しいと評される理由は、この短い試合時間と狭い試合場にある。

今大会を制したのは、昨年BチームのES門真チームが優勝したパナソニック(ES本社)。先鋒から山田、吉村、小野、高、足達という布陣で臨んだこのチームは同社のAチームにあたる。昨年の優勝メンバーである山田、吉村、足達の3人が出場したこのチームが、パナソニックES勢として連覇を達成した。

パナソニックと決勝を争ったのは同じ近畿実業団所属の東レ(滋賀)であった。こちらもメンバーの層が厚く、次鋒の藤田、大将の榎原は滋賀県代表として全日本選手権大会への出場経験があり、中堅の嘉数も今年の全日本選手権への出場を決めている選手。近畿実業団では幾度となく決勝を争っているライバル同士が日本一を決める舞台で竹刀を交えた。

パナソニックと東レとの決勝戦は、先鋒戦で東レ・寺井がメンの一本勝ちを収めると、パナソニックも副将の高が初太刀の出ばなメンを見事に決めて勝利。大

将戦を引き分けた末に、勝利の行方は代表戦へと委ねられることとなった。代表戦に臨んだのは両軍ともに頼りになる大将同士。東レ・榎原は決勝戦がこの日3度目の代表戦、パナソニックの足達も厳しい大将戦を制し続けてチームをこまごま導いてきた。

実業団剣道界屈指の実力者同士の代表戦は、足達の必殺技とも言えるコテで決着した。

連覇の喜びに沸くパナソニック陣営。試合を終えた選手たちを労う酒井順也監督にコメントを聞いた。
「連覇がかかった大会でしたが、昨年優勝してからまたゼロからのスタートというところで今年一年を過ごしてきました。今年は主将をこれまで3年間務めてきた勝見から小野に交替しました。守る剣道ではなく攻める剣道というチームカラー自体は変わりはありませんが、小野新主将のもと、近年では一番稽古を積んだのではないかとこのほど厳しい稽古を重ねてきました」

ゼロからのスタートは、メンバー編成にも顕著に表われた。

「本社チームと門真チームのメンバーが入れ替わっているのもゼロから始めたからその編成です。昨年はBチームに陥落した足達が今回はAチームに返り咲き、チームを牽引してくれました。足達は今年は大阪代表として全日本都道府県対抗優勝大会にも出場していますし、今日の試合ぶり自体も頼りになりました。チー



準々決勝【次鋒】

岩根(パナソニック・ES門真) 反×④ 菅野(富士ゼロックス・大阪)

▲前回大会を制したES門真はパナソニックのBチームにあたるが、Bチームといえども実力は充分。前衛2人は相手に先制を許すもきっちり一本を奪い返して引き分け(写真は次鋒戦の攻防)。その後の中堅、副将で一気に突き放した

チーム	順	先	次	中	副	大	得点
パナソニック(ES門真)		日下	岩根	勝見	永井	磯口	2
		メ	反	④	④	メ	6
富士ゼロックス(大阪)		中野	菅野	奥村	渡邊	森本	0
		④	④	メ	④	メ	2



準々決勝【大将】

足達(パナソニック・ES本社) ④— 山内(日通商事・本社)

▲近年安定した戦績を残している日通商事は今大会でも序盤戦を突破しベスト8にコマを進める。パナソニックに対しても真向勝負を仕掛け、勝負は大将戦へと突入。上段の山内にも足達は臆することなく対峙。すばやくコテを打ち込み、チームに勝利を引き寄せた(写真)

チーム	順	先	次	中	副	大	得点
パナソニック(ES本社)		山田	吉村	小野	高足	足達	1
		④	④	メ	④	④	3
日通商事(本社)		金成	中野	川上	賀山	山内	0
		④	④	メ	④	④	2



準決勝【大将】

足達(パナソニック・ES本社) メコ— ④ 甲斐(西日本シティ銀行・本店)

▲一昨年の覇者西日本シティ銀行と昨年の覇者パナソニックが決勝進出をかけて激突。同点同本数で迎えた大将戦、甲斐がひきメンで先制すれば足達もひきメンで返す。一進一退の攻防はこの日冴え渡った足達のコテが決まった(写真)

チーム	順	先	次	中	副	大	得点
パナソニック(ES本社)		山田	吉村	小野	高足	足達	2
		④	④	メ	④	④	3
西日本シティ銀行(本店)		佐藤	小川	関濱	甲斐	甲斐	1
		④	④	メ	④	④	2



準々決勝【大将】

甲斐(西日本シティ銀行・本店) ④メ— ④ 鈴木(東芝テック・本社)

▲6回戦で東洋水産(本社)を下して勢いに乗る東芝テック。優勝経験のある西日本シティ銀行との戦いも五分の展開を繰り広げる。大将戦、開始すぐに甲斐がメンを奪うも鈴木もすぐさま出ゴテを返す。しかし、甲斐はひきメンを追加(写真)。スリリングな勝負を制した

チーム	順	先	次	中	副	大	得点
西日本シティ銀行(本店)		佐藤	小川	関濱	甲斐	甲斐	1
		④	④	メ	④	④	2
東芝テック(本社)		千葉	尾崎	清村	鈴木	鈴木	1
		④	④	メ	④	④	1



準決勝【代表】

榎原(東レ・滋賀) ドー 磯口(パナソニック・ES門真)

▲榎原にとっては準々決勝に続いてこの日2度目の代表戦となった。対するパナソニックは大将磯口が登場。両者は開始すぐにメンに出るもこれには旗が上がらず、その後試合は長期戦へともつれた。決まり手は榎原の執念の一打(写真)。磯口のメンをドウに返した

チーム	順	先	次	中	副	大	得点	代
東レ(滋賀)		寺井	藤田	嘉数	各務	榎原	0	榎原
		④	④	メ	④	④	0	ド
パナソニック(ES門真)		日下	岩根	勝見	永井	磯口	0	磯口
		④	④	メ	④	④	0	④

準々決勝【代表】

榎原(東レ・滋賀) メ— 竹越(NTT)



◀3回戦では前回大会2位の伊田テクノス(本社)を、6回戦では関東大会連覇の富士ゼロックス(本社)を破ってきたNTT。東レとの戦いは接戦となり、代表戦によって勝敗決することとなった。大将同士の大接戦は熱戦となるも最後は榎原のメンが炸裂(写真は榎原の攻め)

チーム	順	先	次	中	副	大	得点	代
東レ(滋賀)		寺井	藤田	嘉数	各務	榎原	1	榎原
		④	④	メ	④	④	1	メ
NTT		兵藤	渡部	榎本	齊藤	竹越	1	竹越
		④	④	メ	④	④	1	④

ム内に「足達に回せば」という信頼感が生まれ、最後はやはり彼に託すことになりました」

決勝の相手、東レに対しての思いをこのように語る酒井監督。

「近畿大会では昨年まで4年連続で東レさんが優勝されていましたが、今年の大大会では我々が勝たせていただいた。長くないライバル関係が続いていますし、今回の決勝戦でもどちらが勝つか分からない戦いでした。永遠のライバルですね」

決勝が近畿対決となったように、今大会は西日本勢が上位を席巻。3位には西

日本シティ銀行(本店)、パナソニック(E S門真)が入賞し、ベスト4に関東勢が不在という珍しい結果となった。今回のパナソニックの優勝で、日本一の座は3年連続西日本勢が占めたことになる。層の厚い関東勢の巻き返しに期待したい。

